



日野市環境情報センター(愛称かわせみ館)は環境に関する情報を収集・分析・発信するために、2005年7月に市民・事業者・学校・行政の協働で開設されました。

環境情報センター(愛称:かわせみ館)が開設10周年を迎えました

日野市環境情報センター(愛称:かわせみ館)がこの7月で開設10周年を迎えました。開設以来10年間、環境情報センターを支えていただいた多くの皆様に心より御礼申し上げます。

日野市環境情報センター開設までの経緯をみますと、1995年に市民の直接請求による「日野市環境基本条例」が制定され、その第9条に基づき、1999年に公募市民(市民ワーキングチーム)と公募職員(庁内ワーキングチーム)の協働作業で策定された「日野市環境基本計画」の中で環境情報センターの設立が決定されました。これを受けて2005年1月に環境情報センター設立準備会が発足、そして同年7月に日野市の環境情報の受発信拠点「日野市環境情報センター」が開設されました。愛称の「かわせみ館」は市民から公募、「市の鳥」でもあることから決まりました。

センターの主な業務は環境情報の収集・分析・発信、市民を対象とした環境セミナーの開催、児童の環境学習、環境問題の相談、市民環境団体の活動支援、施設の提供、大学や諸団体との連携、公共事業に伴う環境への影響評価などです。具体的には、「市民環境大学」や「みんなの環境セミナー」「小学校への環境学習出張講座」などの実施、「日野市環境白書」や「センター年報」の作成、「かわせみ館ニュース」(年4回)の発行、「雑木林ボランティア講座」や「水辺の楽校」「ひの緑のトラスト」などの活動支援、「環境フェア・環境情報センターブース」や「かわせみ館フェア」「生きものや植物などの写真展」といったイベント開催など活発に活動しています。

この10年間でセンターに来館された方々は延24,000人を超えました。同じく環境学習では子供を対象にした活動を約46,000人に、成人を対象とした活動を約6,600人に実施してきました。これからも市民の皆さんに愛され、必要とされる「日野市環境情報センター」であり続けたいとセンター長以下スタッフ一同願っています。

2017年には黒川清流公園にほど近い場所に建設される(仮称)東豊田複合施設の中に「新環境情報センター」がオープンする予定です。ご期待ください。

6月6日 日野市生物多様性地域戦略策定キックオフイベントが開催され大盛況でした

6月6日(土)10時30分から、イオン多摩平の森イベントホールで「日野市生物多様性地域戦略策定キックオフイベント」が開催されました。会場となったホールは親子で来られた方々を中心に満員の盛況でした。イベントの冒頭、大坪市長から、「緑と清流のまち ひの」を次世代に良好な状況で引き継ぐため、今年度から3か年をかけて「日野市生物多様性地域戦略」を策定する、という宣言がなされました。続いて、小倉環境情報センター長の「生物多様性について」の講演、イオンモール多摩平の森の生物多様性への取組紹介、多摩動物公園スタッフによる「カブトムシ」のお話などがあり、客席の皆さんは熱心に耳を傾けていました。生物多様性に関するお話が終わってから来場者にカブトムシの幼虫の配布が行われ、用意した200セットはあっという間になくなりました。そのほか、会場では「生きもの探し隊員募集」コーナーや、「ふだん着でCO₂をへらそう宣言獲得」コーナーなどが開設されました。「生きもの探し隊員募集」には多くの皆さんが応じ、約70名の隊員が新たに誕生しました。午後の部では「日野市生きもの95選」の上映や、「カブトムシの飼い方教室」などが開かれ、大勢の市民で賑わいました。また、日野市のエコキャラ「エコアラ・エコクマ」の撮影会も行われ、子供たちが嬉しそうに「エコアラ・エコクマ」と一緒に写真におさまっていました。



大坪市長の宣言



小倉センター長の講演



エコアラ・エコクマ



大盛況のカブトムシの配布

環境基本計画推進会議グループの紹介 3

日野市では第2次環境基本計画を遂行していくために、みどり、水、ごみ、CO2の4つの分野で市民と市が協働して取り組んでいます。前回までにCO2グループ、みどりグループの活動を紹介してきましたが、今回はごみグループの活動の紹介です。

<ごみグループ>

ごみグループには、ごみゼロ（焼却・埋立ごみゼロ）を目指す「日野市ごみゼロプラン」を推進している「日野市ごみ減量推進市民会議」と、「生ごみ減らそう！活かそう！大作戦」を展開している「ひの・まちの生ごみを考える会」があります。それぞれごみゼロ推進課と定例会議を持ち、協働で活動しています。そのほかに、後者から枝分かれした2つの組織があります。
(ごみグループ 小野寺 勲)

①日野市ごみ減量推進市民会議

<主な活動内容>

ごみ減量のための啓発活動として、日野市のごみ情報誌『エコー』や『ごみ・資源分別カレンダー』の「市民のページ」を利用して、マイバッグ持参や容器包装の販売店への返却などを呼びかけています。また、現在市内のスーパー・生協7店舗で実施しているレジ袋無料配布中止を全スーパーに拡大するため、スーパー・市民団体・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」をほぼ3ヵ月おきに開いています。

<主な活動場所・活動日>かわせみ館にて、毎月第2木曜日14:00～15:30に定例会議

②ひの・まちの生ごみを考える会

<主な活動内容>

当会の独自活動としては、家庭での生ごみの減量・自家処理を推進するため、『エコー』の「市民のページ」や講演会などによって、「3切り」（水切り、食べ切り、使い切り）や庭への埋め立て、堆肥化を呼びかけています。

また、当会から枝分かれした「生ごみリサイクルサポーター連絡会」は、手軽に生ごみを堆肥化できるダンボールコンポストを普及させるため、講習会や交流サロン、各種イベントでの展示・実演を実施しています。

一方、「まちの生ごみ活かし隊」は、約200世帯の生ごみを回収し、新井にあるコミュニティガーデン「せせらぎ農園」の畑に直接すき込んで野菜を栽培しています。ここは、新しい都市農業のかたちとして、また、地域の人たちの楽しい居場所や、農体験を通しての食育や環境教育の場として、各方面から注目されています。

<主な活動場所・活動日>市民活動支援センターにて、
毎月第4金曜日10:00～12:00に定例会議

*連絡先：①②とも日野市ごみゼロ推進課 電話042-581-0444



せせらぎ農園にて

日野市の昆虫たち（その1）

日野の自然を守る会 森川正昭

私たちが住んでいる日野市には、何種類位の昆虫類が生息しているのだろうか。

調べて見るのも面白そうだ。そんな途方もないことを思って、ここ数年の間、日野市内の昆虫を調べています。東京から西に35kmに位置し、緑豊かな多摩丘陵や日野台地、そして浅川と多摩川の大きな河川が流れ、張り巡らされた用水など、自然に富んだ町・日野市。しかし、その豊かな自然も、ここ半世紀の間に大きく変わってしまいました。特に多摩丘陵の緑は毎年のように失われ、かつての面影はもうありません。下の図（日野市郷土資料館作成）をご覧ください。左の図は昭和30年代の土地利用図、右の図は平成19年の土地利用図です。図の下の色濃い部分が多摩丘陵の緑です。昭和30年代、まだ開発される前の多摩丘陵が、如何に緑豊かな自然が残っていたかお分かりになると思います。それから半世紀後の平成19年にはその豊かな緑も殆どが住宅地にかわり僅かに残るだけになってしまいました。そして、そこに生息していた昆虫たちも姿を消して行ったのです。これからも、日野市の自然は失われて行くでしょう。ですから、その前に、今市内で見られる昆虫たちを少しでも調べ、市内に生息していた証として、その記録を残しておく必要があると思うのです。

日野市の自然の大きな特徴として、前述しましたように、多摩丘陵と浅川、多摩川の大きな河川があることです。そして、そこには、その環境に適した種類の昆虫たちが生息しています。それだけ、これがない他の地域と比べて多くの種類の昆虫たちが日野市内には生息していると言えます。また、地球環境が大きく変わりつつある中、地球の温暖化が大きな問題になっています。そして、気温の上昇とともに市内で見られる昆虫たちもこの半世紀の間に変わってきています。

次回からは、多摩丘陵や河川敷で見られる昆虫、また、環境の変化により、見られなくなった昆虫、新しく棲みついた昆虫などについてお話をしたいと思います。



昭和30年代土地利用図



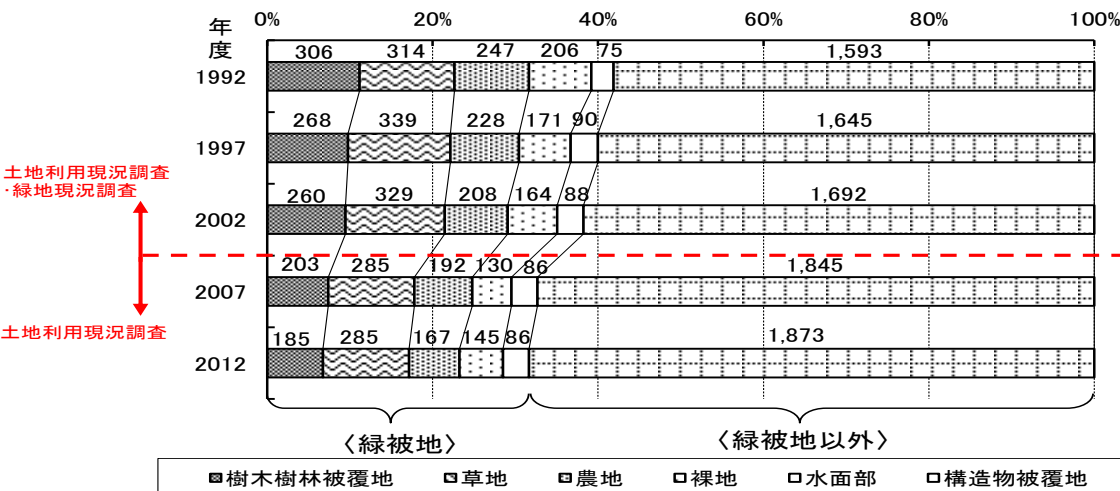
平成19年土地利用図

■2013年度 日野市環境白書から② 「日野市の森林の面積や割合はどれくらい？」

緑の構成比(5年毎調査)

(グラフ中の数字は面積:ha)

＜目標値＞
森林の割合:7.4%
緑被率:32.7%
(平成32年度)



*1992～2002年度調査は土地利用現況調査と同時に緑地現況調査の成果報告値。
*2007年度以降の調査は東京都が行っており、緑地現況調査は実施されなかったため、土地利用現況調査のみどり率から抽出したもので、全く調査内容が異なる。

2002年度までは日野市が行った緑地現況調査の結果です。また、2007年度以降のデータは、東京都の土地利用現況調査の結果を2002年度までの調査項目に合わせたものです。

2002年度と2007年度以降を比較した場合、調査内容が異なることに注意が必要ですが、減少傾向であることは変わらないと思われます。2012年度の「森林」面積は185ha、その割合は日野市全体の面積の6.7%で、2007年度に比べ0.7%減少しました。また、緑被率も31.7%と1.0%減少しています。

環境基本計画では、みどり全体の量の保全を目指しています。みどりの量を計る指標である緑被率と、そのなかでも自然度が高い「森林」（樹木樹林被覆地）の割合については、2007年度数値の維持を目標として掲げています。

■3回目の開催となった「ホタルの夕べ」に今年もたくさんの市民の方が参加しました

日野市の里山といわれる百草地区には、ホタルが長年細々と生息している場所が数か所あります。「真堂が谷戸蛍の会」では、多くの方にホタルを鑑賞していただき、皆でこのホタルの生息する自然環境を守り次の世代につなげることをめざして、日野市と共催で一昨年から「ホタルの夕べ」を開催してまいりました。

今年も6月25日（木）に開催。広報で募集した25人の参加者が19:00百草駅前に集合し、20分ほど山道を歩き、辿り着いた百草地区センターでホタルについて学習会が開かれました。日野市からは市内のホタルの生息状況等の説明、「真堂が谷戸蛍の会」からは、ホタルなどの生物のための自然環境保全や管理の話、さらにホタルを養殖したり他の地域のホタルやカワニナを放流（遺伝子の攪乱等）しないこと等を含めた生物多様性についても学習しました。30分間の学習会を終え、さらに20分ほど山道や市街地を歩き、ようやく真堂が谷戸に到着しました。今年も5月が例年より暑かった影響でホタルの飛翔数が心配されましたが、25～30頭のホタルが乱舞？してくれ、参加者から歓喜の声が上がり皆さん大満足の様子でした。

「ホタルの夕べ」の開催は、時期尚早と危ぶむ声もありましたが、日本人なら誰でも大好きなホタルを鑑賞していただき、皆で大切に守っていくことを「真堂が谷戸蛍の会」では願っています。

真堂が谷戸は、日野市の東側百草地区の最東端にある小さな小さな里山です。しかし、この地区付近も開発の波が押し寄せてきたことから、ホタルを守らねばという危機感がつのり、平成20年11月、雑木林とホタルなどを保全するための「真堂が谷戸蛍の会」が立ち上がりました。この小さな里山は、雑木林からの湧水で、カワニナ、サワガニ、ホタルなどが細々と生息しています。

当会の活動は、ホタルだけではなく、生物多様性を考えた里山の保全活動と位置づけ雑木林の管理、畑、田んぼの管理、1ヵ月間のホタルの調査等たのしく汗をかきながら活動しています。

(真堂が谷戸蛍の会事務局 笹木 延吉)



参加された方々と記念撮影

■4～6月の活動報告

5月9日（土） ゴーヤのカーテン設置

かわせみ館の西側の壁面にゴーヤを使用した緑のカーテンを設置しました。2階の窓の上までネットを張りゴーヤの苗を15本植え、現在（7月5日）つるが5mを超えて育ちたくさんの花が咲き、小さな実もつき始めています。また、センターではゴーヤの種を市民の方を対象に80袋ほど配布、5月1か月間で約40名の市民が訪れました。今年も市内のあちこちで涼しげなゴーヤのカーテンが見られることでしょう。

5月7日（木） 第7期市民環境大学スタート

第1回目の講座には市民を中心に19名が参加、これから前期（5月～7月）後期（10月～12月）あわせて20回の講座が開かれます。地球規模から身の回りの環境まで幅広く考え、問題解決のためにできることを実践することを目指します。

5月16日（土） 第11期雑木林ボランティア講座スタート

第1回目の参加者は29名、来年3月まで10回の講座が開かれます。明るく健全な雑木林を維持管理するノウハウを様々な切り口から学びます。

6月19日（金）～26日（金） 「日野の昆虫たち」写真展

「日野の生きものたち写真展」企画第1弾として市役所1階市民ホールで開催。丘陵地と河川敷に生息する昆虫たちを36枚の写真で紹介、多くの市民の方が興味深そうに見ていました。「日野の生きものたち写真展」は、日野市が今年度から平成29年度までの3年間をかけて策定する「生物多様性地域戦略」を受けて開催します。これからも「日野の魚たち」「日野の野鳥たち」「日野の植物たち」など日野の生きものたちの写真展を開催していく予定です。

6月28日（日） みんなの環境セミナー「集まれ！昆虫キッズ 日野の昆虫を調べよう」

6月28日（日）10：30～12：00、環境情報センター2階会議室で開催。講師は日野の自然を守る会の森川正昭氏。広報ひので募集した小学生の親子9組21名が参加しました。前述の写真展と連動し、日野で見られる昆虫たちについて解説していただきました。写真のほか森川氏所蔵の昆虫の標本も10箱ほど展示、大いに盛り上がりました。参加者には飼育箱に入れたに入れたカブトムシのサナギのプレゼントもありました。



7月2日（木） みんなの環境セミナー「谷仲山の水と緑を見る・知る・探る」

7月2日（木）10：00～12：00、市民環境大学公開講座として開催しました。参加者は19名。環境情報センターに集合後、歩いて谷仲山に移動し、水質検査をしたり、周囲の植物の解説を聞いたりしました。

* * 7月～9月の行事・イベントのお知らせ * *

8月1日（土） みんなの環境セミナー「夏休み 水車と用水を学ぼう」

向島用水親水公園にある水車小屋で精米や発電実験をします。水車の力や用水の役割について楽しく学びます。参加は自由。日野の水車活用プロジェクトと共催です。7月15日発行の広報「ひの」でお知らせします。

8月7日（金）～14日（金） 「日野の魚たち」写真展

6月の「日野の昆虫たち」写真展に続き、「日野の生きものたち写真展」企画第2弾として、市役所1階市民ホールで開催します。市内の川や用水に生息する魚たちを写真で紹介します。8月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。是非、見に来てください。

9月19日（土） みんなの環境セミナー「虫や風を利用する花たち」

雑木林ボランティア講座の公開講座。毎年開催される人気講座です。虫や風を利用して受粉するために花がどのように色や形を工夫しているかを見ながら、花の形態や各部分の名前を学びます。南平丘陵公園で植物観察も行います。9月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

「ひの緑のトラスト」募金活動にご協力を

百草地区には貴重な雑木林が市民と行政の協働により残されており、市民による保全活動が活発に行われています。この貴重な里山の保全を進めるため「ひの緑のトラスト」が設立され、募金活動を行っています。

環境情報センターでは「ひの緑のトラスト」の事務局として、募金活動などを担当しています。市内の緑地保全のための募金にご協力をお願いします。詳細は環境情報センターまでお問い合わせください。



発行 日野市環境情報センター かわせみ館
〒191-0011 東京都日野市日野本町1-6-3
Tel/fax:042-581-1164
Eメール:kankyo@m2.hinocatv.ne.jp